

平成 24 年 5 月 1 日

第 2 回誠愛院内勉強会

口腔ケアの基礎知識

内藤 徹

福岡歯科大学総合歯科学講座高齢者歯科学分野 准教授

口腔は、「食べる」という生命の維持に欠かせない機能を担う器官である。また同時に、会話やコミュニケーションにも欠かせない機能を果たし、口腔の状態の低下は著しい生活の質（QOL）の低下をもたらすことが知られている。近年では、口腔の健康は咀嚼機能の低下といった口腔近傍の機能低下だけでなく、循環器疾患や糖尿病、肺炎や低体重児出産といった、全身の疾患にも大きな影響を及ぼす可能性が示唆されている。

口腔ケアに関連して最近最も注目を集めているのは、要介護高齢者や嚥下障害のある患者に対する肺炎予防の効果である。日本人の主な死因の第 4 位は肺炎であるが、高齢者の肺炎の多くは、細菌などに汚染された唾液や食物を誤嚥することで起こる誤嚥性肺炎が原因であるとされている。口腔ケアは、誤嚥によって呼吸器に侵入する可能性のある細菌数を減少させ、また低下した咳反射を促進することによって肺炎予防に有効である可能性が示唆されている。これまで発表された要介護高齢者に対するランダム化比較試験では、継続的な口腔ケアによって、肺炎発症を 40%減少させること、肺炎による死亡率を 50%減少させることを示している。

今回は、口腔ケアを実施するにあたって必要な口腔・歯の解剖、おもな口腔疾患、口腔疾患と全身疾患の関わりについてのこれまでの研究の推移についての概説とともに、口腔ケアの基本手技についての解説を行う。